

平成29年度 コミッショナー教育活動方針

心の火を絶やすな

昨年度は県連盟主導の活動を多く行いました。カブにはカブラリー、ボーイとベンチャーには合同野営(Hyocam2016,HHAC2016)、ローバーやユースにはカブラリーの計画・運営に取組んでもらいました。そして、団委員長には団委員長セミナーと、皆さんの心のうちには火がともったことと思います。県連盟としては特別な活動が無かったビーバーも、毎年多くの仲間を獲得し、常に新しい火をこの運動にもたらしています。この火を絶やさないようにしましょう。

安芸の宮島の霊火堂には1200年にわたり燃え続ける火があります。弥山を開いた弘法大師が焚いた護摩の火が今も守られているのです。偉大なる信仰の力ですが、それを守ろうとする心と薪をくべる日々の努力が営々と続けられていることで、その火は燃え続けているのです。

私たちの活動も今から100年ほど前にベーデン・パウエル卿によって点火されました。そして、昨年はその火が消えないように少し空気を送りました。それを燃やし続けさらに大きな火にしましょう。コミッショナーは薪をくべていきたいと思えます。

1. 新しいシステムを生かそう

日本連盟100周年に向けて策定された長中期計画の中で、大きなシステムが3つ始動します。

- ・セーフ・フロム・ハームの導入
- ・基礎訓練課程の改定(WB研修所スカウトコース・WB研修所課程別研修の採用)
- ・進級課程の改定(ボーイからベンチャーの進級が初級から富士まで6段階に一本化)

これらの導入・改定を円滑に進められるよう、県連盟として説明会・研修会などを通じてサポートしていきます。どのシステムもボーイスカウトの質の向上につながるものです。新たによく燃える薪がくべられると思って、十分に趣旨を理解し普段の活動で生かしていきましょう。

2. 団の力をさらに向上させよう

昨年度行った団委員長セミナーでは、各団の抱える問題に気づき改善していこうという意識を醸成することができました。いよいよ今年度は改善を実行に移しましょう。

課題の解決には具体的な行動が必要です。念じていても解決しません。具体的なアクションを起こし、その結果に基づいてさらなるアクションを計画する。つまりはPDCAサイクルの実行が要求されます。コミッショナーはこのサイクルを回すのが仕事です。団委員長が自分で回すのが難しければコミッショナーの力を借りてください。

3. 団・地区・県連がひとつになって課題解決にあたろう

団・地区・県連という組織は、スカウト運動を円滑に進めるために重要なものですが、組織を維持・推進するために運動があるわけではありません。

個々のスカウトがどのように成長しているのか。スカウトたちが日々どのような善行をし、善行ができるように準備をしているのか。私たちの活動が善行を通じて社会的地位を確保できているのか。スカウト運動の根幹にあるちかとおきての実践は、そういった視点で評価できます。その評価を支えるのが団・地区・県連という組織であり、ひとつになって動いていく必要があります。

課題を見つけたら組織上の上下を問わず、よりよくするため工夫するスカウト精神で解決にあたっていかなければなりません。集会・会議・研修、さらに訪問・面談の場を積極的に設け、活用していきましょう。